日本史演習1B- I

科目ナンバリング SEM-301
選択必修 2単位

相澤 央

1. 授業の概要(ねらい)

日本古代史に関する論文の中から、報告者が関心のあるテーマの論文を選び、論文の要旨や意義、疑問点、批判点などについてレジュメにまとめて報告する。報告者以外の演習参加者も同じ論文を事前に必ず読み、自分の意見をもって演習に参加し、全員で討論する。授業は当番の司会者が、発表・質疑・討論の進行をして、最後にまとめる。研究論文を読解して要旨を簡潔にまとめるとともに、疑問点・批判点など自分の意見を含めて発表することができるようになることがこの演習のねらいである。

2. 授業の到達目標

- ①研究論文を読解し、要旨を簡潔にまとめられるようになる。
- ②疑問点・批判点など、研究論文に対する自分の意見をまとめて発表できるようになる。
- ③歴史における専門知識をもとにして、対象とする地域・時代のことから論理的に考察できるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

授業での発表・報告レジュメ・討論への参加(50%)と、期末レポート(50%)で評価する。

4. 教科書・参考文献

参考文献

佐藤信編 『日本古代史講義-邪馬台国から平安時代まで-』 ちくま新書
『岩波講座日本歴史』1～5 岩波書店
『列島の古代史』2～7 岩波書店

5. 準備学修の内容

報告担当者は、選んだ研究論文の要旨と疑問点・批判点などについてまとめたレジュメを作成する。報告者以外の演習参加者は、同じ研究論文を読み、自分の意見や疑問点などを各自でノートにまとめて授業に参加する。期末レポートの作成に向けて、関心のあるテーマに関わる文献や史料を読み、日ごろから各自で自主的に準備を進めること。

6. その他履修上の注意事項

4年次に日本古代史で卒業論文を執筆する予定の学生は必ず履修すること。この演習で選んだ研究テーマを卒業論文に発展させることが望ましい。状況が許せば、校外授業(史跡、博物館等の見学)を行う可能性がある。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス。演習の進め方、研究論文リストの配布など。
- 【第2回】 報告担当論文の決定。報告・司会の当番の決定など。
- 【第3回】 教員による発表のデモンストレーション。
- 【第4回】 報告担当者による発表と全員での討論①
- 【第5回】 報告担当者による発表と全員での討論②
- 【第6回】 報告担当者による発表と全員での討論③
- 【第7回】 報告担当者による発表と全員での討論④
- 【第8回】 報告担当者による発表と全員での討論⑤
- 【第9回】 報告担当者による発表と全員での討論⑥
- 【第10回】 報告担当者による発表と全員での討論⑦
- 【第11回】 報告担当者による発表と全員での討論⑧
- 【第12回】 報告担当者による発表と全員での討論⑨
- 【第13回】 報告担当者による発表と全員での討論⑩
- 【第14回】 報告担当者による発表と全員での討論⑪
- 【第15回】 教員による研究報告(オンライン授業)